

1 序文 越智博美・齋藤一・橋本恭子・吉原ゆかり・渡辺直紀

第 1 部 日 本

18 1章 新しい女性に捧げる『赤毛のアン』
——村岡花子と戦後アメリカの文化政策 越智博美

41 2章 占領者から親しい「隣人」へ
——冷戦期の日米親善と庄野潤三『ガンビア滞在記』における「アメリカ」 キム・ジョン 金志映

63 3章 占領期のターザン漫画における大衆的想像力の所在
——アフリカ・原子力・メロドラマ 杉本章吾

79 4章 一九五四年の「死の水曜日」 齋藤一

106 5章 日本におけるアフリカ系アメリカ人文学受容と社会主義
——冷戦下の反米的平和運動から第三世界へ 西田桐子

126

6 章

デアドラ論は完成されていない

——李孝石の「緑の塔」(一九四〇年)における失敗の諸相

金牡蘭
(キム・モラン)

146

7 章

崔載瑞の「マッカーサー」
(チェ・シユソク)

——マッカーサー表象を通じてみた、ある親日エリート解放前後

鄭鍾賢
(チェ・ジョンヒョク)

179

8 章

冷戦と援助の力学、韓国冷戦文化の政治性とアジア的地平

李奉範
(イ・ボンボム)

202

9 章

白鉄の「新批評」前後、韓国現代文学批評理論の冷戦的様相
(ベク・テヨル、ニユー・クリテイシズム)

黄鎬徳
(ファン・ホドク)

第 3 部 台湾

222

10 章

「米国広報・文化交流局」(USIS)と台湾文学史の書き換え

——アメリカ援助体制下の台湾・香港における雑誌出版の考察を中心に

陳建忠
(チェン・チンチュウ)

264

11 章

東西冷戦下の台湾における「中国派」比較文学の誕生

——中華文化復興運動と台米関係の視点から

橋本恭子

433	410	379	347	330	305	288
18章	17章	16章	15章	14章	13章	12章
六八革命と東アジア ——思想・言説連環の冷戦的文脈	一九四五年を跨境する文学・文化の地政学 ——N・V・M・ゴンザレスの環太平洋・インターアジア旅程	戒厳令下のコミックス ——一九七〇年代フィリピンにおける「新しい社会」と国語／文学	アジア財団の映画プロジェクトと一九五〇年代アジアの文化冷戦 (渡辺直紀・訳)	近代／中国／女性、一九四〇～六〇年代韓国の中国認識 ——韓国における謝冰瑩自伝の受容史を中心に (チェ・ジンソク) 崔珍碩 (金景彩・訳)	林語堂、「東洋」と「知恵」の政治性 ——一九五〇～六〇年代韓国における林語堂ブームと「二つの中国」 (クオン) 権ボドウレ (李珠姫・訳)	東アジア的モダニズムをめぐる 佐野正人
渡辺直紀	吉原ゆかり	南隆太				

470

461

索引

執筆者・翻訳者紹介